

楷の木

本校の裏門近くに楷の木（カイノキ）という樹木が植えられています。秋から冬にかけて綺麗に色づきます。この木は、日本ではあまり見ることのできない木です。また「学問の木」として知られています。本校に植えられた詳しい経緯はよく分かりませんが、おそらく生徒達の勉学を励ます意味合いがあったのでは無いかと思います。

以下、東京・湯島聖堂の楷の木（楷樹/カイノキ）のそばに立てられている説明板の本文を引用します。

楷樹の由来

楷 かい

学名 とねりばはぜのき うるし科

PISTACIA CHINENSIS. BUNGE

楷は曲阜にある孔子の墓所に植えられている名木で初め子貢が植えたと伝えられ 今日まで植えつがれてきている 枝や葉が整然としているので、書道でいう楷書の語源ともなったといわれている。

わが国に渡来したのは 大正四年 林学博士 白澤保美氏が曲阜から種子を持ち帰り、東京目黒の農商務省林業試験場で苗に仕立てたのが最初である。これらの苗は当聖廟をはじめ儒学に関係深い所に頒ち植えられた その後も数氏が持ち帰って苗を作ったが性来雌雄異株であるうえ 花が咲くまでに三十年位もかかるため わが国で種子を得ることはできなかったが 幸いにして数年前から二三個所で結実を見るに至ったので 今後は次第に孫苗がふえてゆくと思われる。

中国では殆んど全土に生育し 黄連木 黄連茶その他の別名も多く 秋の黄葉が美しいという台湾では爛心木と呼ばれている 牧野富太郎博士はこれに孔子木と命名された

孔子と楷とは離すことができないものとなっているが 特に当廟にあるものは曲阜の樹の正子に当る聖木であることをここに記して世に伝える。



昭和四十四年己酉秋日 矢野一郎 文